

なぜ、子供も大人も凶悪犯罪をおかすのか

—食事によって心と体を甦らせる—



前長野県真田町教育長・前長野県上田市教育委員長 **大塚 貢**

学力低下・いじめ・殺人・自殺など、教育現場での、悲しいニュースが、流れない日はない。どうしていとも簡単に、尊い人の命を奪うのか。どうして朝から晩まで、「勉強勉強」「テストテスト」とハッパをかけても、学力が向上しないのか。

その根本は、心と体の土台づくりをしない、いやしようとししない所にある。無理に勉強を詰め込むから、ゆがみやほころびが起きてくる。そしてこのように育った大人が、自己制御できずに、犯罪を犯す。また働く気力も無くニートになる。

非行やいじめがなぜ起こるか

自分を制御できずに、非行を起こしたり、キレたりするのはなぜか。校長の時、教育長の時、生活と食事について徹底的に調査した。授業に大きな原因の一端もあるが、食事に大きな原因があった。朝食を食べて来ない生徒は30%を超えた。食べて来ても、パンとハム・ウインナーなどが多い。夕食はカレー・焼肉等が多い。これらの生徒の多くは、非行を起こしたり、いじめたり、暴力を起こしたり、学習に無気力な生徒であった。

朝食抜きであれば、前夜の8時頃夕食を食べても、学校給食は12時半頃であるから、16時間くらい、全く食事をとっていない。成長盛りの子供達が、空腹からの無気力、イライラするのは当然である。朝食はハム・ウインナー、夕食はカレー・焼肉では、魚や野菜が極めて少ない。

カルシウムやミネラル、亜鉛など、微量の栄養素の不足から、血のめぐりが悪くなり、学習に無気力になっている。自己制御が出来ずにキレる、非行を起こす、いじめる生徒の、原因がここにあった。

地産地消の完全米飯給食に（平成11年頃から逐次導入）

親に、魚と肉と野菜の、バランスのとれた食事をと、呼びかけたが反応は極めて低い。校長として、教育長として、結局学校給食から、改革するより方法がなかった。

肉はある程度家庭にまかせ、週5日、魚と野菜に合う米飯にした。しかし、子供も先生も親も、好きなもの、食べたいものを食べさせると、大反対であった。結局試食会を何回も開いて理解を深めた。

稲や野菜に消毒薬がかかっていたり、輸入食品にカビが生えて来ない。これらの食材を毎日食べれば、健康に影響が出るのは当然である。無農薬か低農薬の米や野菜、大豆製品など、地産地消に切り換えた。

魚や野菜が多い米飯給食にした結果

自分を制御できない子供がいなくなり、キレる子供、非行を起こす子供は、ここ数年ゼロである。いじめがなくなり、不登校は極めて少ない。重度のアトピーやアレルギーの子供がいらない。中性脂肪やコレステロールの高い子供がいなくなった。

そして血のめぐりがよくなり、学習に集中

でき、全国学力テストでは、全国平均よりかなり高い成績を上げている。

「食」の改善から、子供を健やかに育てることが出来、成人しても人間としての生き方が出来る、大人になっている。

真田町の教育

1. 真田町の現状

- (1) 面積 18,190ha (うち山林11,414ha)
- (2) 人口 11,649人 (男性5,751人 女性5,898人)
(平成18年1月10日現在)
- (3) 職業 ○第1次産業 17%
○第2次産業 34%
○第3次産業 49%

2. 真田町の学校数と児童・生徒数

- (1) 学校数 小学校 4校
中学校 2校
- (2) 児童・生徒数(平成18年1月10日現在)
小学校 710人 (平成16年 766人)
中学校 434人 (平成16年 434人)
合計 1,144人 (平成16年 1,200人)

3. 児童・生徒の生活状況

- (1) 万引・非行等犯罪の状況
※警察・学校・教育委員会等の調査確認で
 - ①平成16年度 ・小学校0件
・中学校0件
 - ②平成17年度 ・小学校0件
・中学校0件
- (2) 不登校の状況
 - ①平成16年度 ・小学校0件
・中学校4件
 - ②平成17年度 ・小学校0件
・中学校3件
- (3) 学習塾への通塾の状況
小学校 各校10%
中学校 1校は10%、1校は30%、
学年で40%

4. 学力の状況

〔教研式CRT学力テスト(全国)〕から
・2005年(平成17年5月19日)実施

(1) 小学校

〔国語〕2年生

- ・話す、聞く能力、書く能力、読む能力は全国平均よりかなり高い。
- ・全体的にはA評価(学力が高い)は全国平均より極めて高い。C評価(学力が低い)児童は極めて少ない。

(2) 中学校

〔数学〕数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理(計算力)のA評価はかなり高い。C評価の生徒は非常に少ない。

〔英語〕2年生

- ・全観点で全国平均より高く、C評価(学力が低い)児童は極めて少ない。

5. 学校給食を週5日「完全和食」に

(1) 学校給食の現状

①各校 自校給食

②週5日「完全和食」に

- ・肉・魚・野菜等のバランスをとる。カルシウム、ミネラル等を摂取する為に小魚を毎日食す。

③地産地消 米・野菜・果物等は真田町産の低農薬の作物を使っている。

④発芽玄米 ~米の13%使用

(2) 学校栄養士が「食と健康」で平成9年から授業を行い、食と健康について関心を持つようになった。

(3) 学校給食を重視した結果

- ①対教師暴力、対友人暴力、いじめなど“キレル”児童・生徒がいなくなった。
- ②全校集会等で貧血で倒れる児童・生徒が極めて少なくなった。
- ③中性脂肪過多の児童・生徒が極めて少なくなった。

- 中性脂肪異常の者（中学生）
男子0人 女子0人
- コレステロール高値の者（中学生）
男子2人 女子0人

6. 「心の教育」学校教育で

- 美しいものを美しいと感じる心を育てる。
- 命あるものを大事にする心を育てる。
- 思いやりの心を育てる。

(1) 全学校での取り組み

- ①土を作り、種を蒔き、苗を育て美しい花を咲かせる。↓
汗を流し、体を通して花にも命があることを知り、美しいものを美しいと感じる心と命あるもの、美しいものを大事にする心が育っている。

(2) 学年・学級での取り組み

- ①小動物の飼育 蚕・うさぎ等
- ②稲・野菜等の栽培

7. 教師一人ひとり真剣に父母が評価

設問(問3、問4、問5で高い評価を受けている。)

〔設問3〕 わが子は、いきいきと学校生活を送っているか。

- 親は99～100%に近い子どもたちが、生き生きと学校生活を送っていると見ている。低いクラスでも95%である。
- この結果から、子どもたちは明るく元気で学校生活を送っていると思われる。

〔設問4〕 わが子は、学習内容を理解しようと意欲的に学習に参加しているか。

- 親は95～100%の子どもが意欲的に学習に参加していると見ている。

〔設問5〕 職員は基礎学力を高めるために、授業や指導の工夫をしているか。

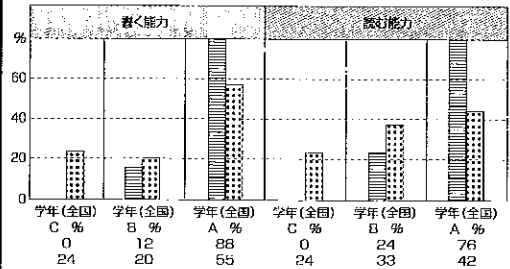
- 親は先生方の授業の工夫や努力を99～100%と高く評価している。これからも親と先生との高い信頼関係が成り立つ大きな要素である。

真田町の学力

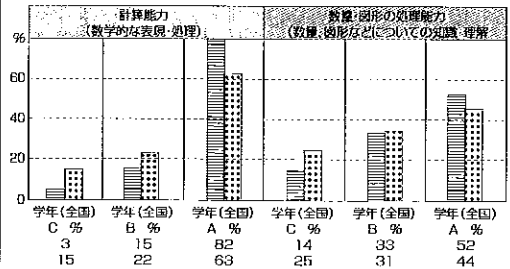
〔教研式・CRT学力テスト（全国）〕

- 実施 2005年（平成17年）5月
- A・B・C (A) 学力が高いランク (B) 学力が中間ランク (C) 学力が低いランク
- 全国 全国の学年の受験生がA・B・Cの各ランクに入る%（全国平均）
- 学年 学校の学年の受験生がA・B・Cの各ランクに入る%（学校平均）

M小学校2年 国語



N中学校1年 数学



S小学校2年 英語

